

『物流Weekly』連載原稿

「日本ロジファクトリーの物流ケース・スタディー」第2回

<タイトル>

「物流改善は個々の力の結集」正確な問題点の把握

<本文>

〇社は年商六十億円の3PL企業で、ディスカウントストアの物流センターを手がけている。前号の私の『観察視点』をもとに『問題点(仮説)』を述べる。

問題点

誰でも容易に出入りできる現場で、危機管理ができていない。

他人に対する関心がないため、商品の勝手な持ち出しや万引きがしやすい環境にある。

入庫時間が曖昧なため、出庫商品と重なってしまい、作業が必要以上に煩雑化している。

現場管理者が自分の本来の仕事内容を理解していないために起こる膨大な手待ち時間がある。

作業指示がないため、自分のペースで作業を行っており、総体的に作業効率が低下している。

人時生産性の把握ができていない 数字による物流センター管理がなされていない。

を踏まえ、当然、物流センターとしてのボトルネックが把握できていない。

である。皆さんの考察はどうでしたか。

上記に述べた問題点は必要最低限のものであり、いろいろな考え方があると思うが、さらに整理すると次のように集約される。

個々人の仕事に対する問題意識の軽薄感。

繁忙業務の交通整理ができていない(=入出庫時間の調整とレイバーコントロール)。

現状把握が定性的(定量的な『数値分析』による現状把握がされていない)。

これらを踏まえ、私はこれから始まる物流改善への道が遠く長いものになると感じていた。

現場の状況をある程度把握し、事務所に入った。弊社に改善を依頼されたセンター長のY氏に、現状の問題点についてヒアリングを約一時間行った後、現場視察を丹念に行った。

同氏の考えていた問題点は、

人員が多過ぎるが、現場管理者が現状でも人員が足りないといっているため、人員削減ができない

今まで改善を自社内でできる限り行ってきたが、総体的にコストが下がらないどころか、逆に改善を行えば行うほどコストが上昇してしまっている。

の経緯があるため、どこから手をつければ良いか分からなくなっている。

であった。私と同氏の問題点を踏まえ、もう一度、現場視察を一緒に行った。改めて現場の詳細をチェックしてみると、私の仮説は的を得ているばかりか、さらなる問題点が浮上した。それは、Yセンター長が把握している問題点と結びついていた。改善を自社内で行ってきたが、その改善を途中で止めてしまったために、現場は改善を行う前よりも荒れてしまっていた。ピッキング一つを取ってもテマ・ヒマがかかっており、管理できる状態ではなかった。

これらの問題点を踏まえ、読者の方に改善の着手順序を考えて頂きたい。私の考えた改善の着手順序は次週にて・・・。

(次週に続く)